平成23年度決算
西脇市の財政状況をお知らせします

西脇市の平成23年度決算がまとまりました。財政健全化指標と併せて各会計の状況をお知らせします。【表1】

厳しい経済状況の中、引き続き合併特例債や国・県補助金などを最大限に活用し、施策の計画的な推進に努め、当面する課題に取り組みました。

一般会計では、地方交付税など予算を上回る収入を確保でき、歳入歳出差引額は7億1261万8千円となり、合併後7年連続の黒字となりました。

特別会計では、国民健康保険特別会計で財政調整基金を取り崩すことなく、5548万2千円の黒字となりました。その他の6会計は、ほぼ予算どおりの執行となりました。

企業会計の3会計では、病院事業会計で赤字となりましたが、今後とも安定した経営基盤の確立に努めていきます。

【表1】　平成23年度会計別決算の状況

（単位　千円）

会計名	歳入額	歳出額	歳入歳出差引額
一般会計	19,345,244	18,632,626	712,618
特別会計	10,150,242	10,062,535	87,707
国民健康保険特別会計	5,174,936	5,119,454	55,482
学校給食センター特別会計	318,330	318,330	0
老人保健施設特別会計	464,655	464,655	0
公営墓地特別会計	12,938	12,938	0
介護保険特別会計	3,572,057	3,556,750	15,307
茜が丘宅地供給事業特別会計	170,440	164,170	6,270
後期高齢者医療特別会計	436,886	426,238	10,648
企業会計	9,894,674	9,970,928	△ 76,254
水道事業会計	992,403	953,202	39,201
簡易水道事業会計	41,831	24,037	17,794
下水道事業会計	1,744,866	1,696,779	48,087
病院事業会計	7,115,574	7,296,910	△ 181,336
総合計	39,390,160	38,666,089	724,071

※企業会計は収益的収支を計上（税抜き）

一般会計決算の概要

一般会計の決算額は、歳入193億4524万4千円、歳出186億3262万6千円で、歳入歳出差引額7億1261万8千円から翌年度へ繰り越す財源1億4264万4千円を差し引いた実質収支額は5億6997万4千円となり、そのうち3億円を財政調整基金に積み立てました。

歳入の状況

左上の【表2】をご覧ください。歳入で最も多いのは、地方交付税です。前年度決算額と比較して、普通交付税が1億9770万5千円増加し、特別交付税と合わせて2億2752万1千円の増加（前年比4・0％増）。

次いで、市民税が6592万9千円の増加、固定資産税は1209万8千円の減少となり、市税全体で8439万9千円の増加（前年比1・6％増）。

国庫支出金は国の経済対策による補助金が減少したことなどから2億7722万2千円減少（前年比14・1％減）。

グラフのその他に含む財産収入では（財）西脇市保健福祉公社が（社）西脇市社会福祉協議会と合併し解散したことに伴う清算金などにより、2億9878万2千円増加しました（前年比263・8％増）。

歳出の状況

歳出の状況を目的別にみると、民生費は地域福祉基金への積立金や国庫補助事業による地域介護拠点整備事業費などで3億9977万6千円の増加。

商工費は比延山麓産業誘致地区整備事業に伴う用地取得等が完了したことなどで4億2448万7千円の減少。

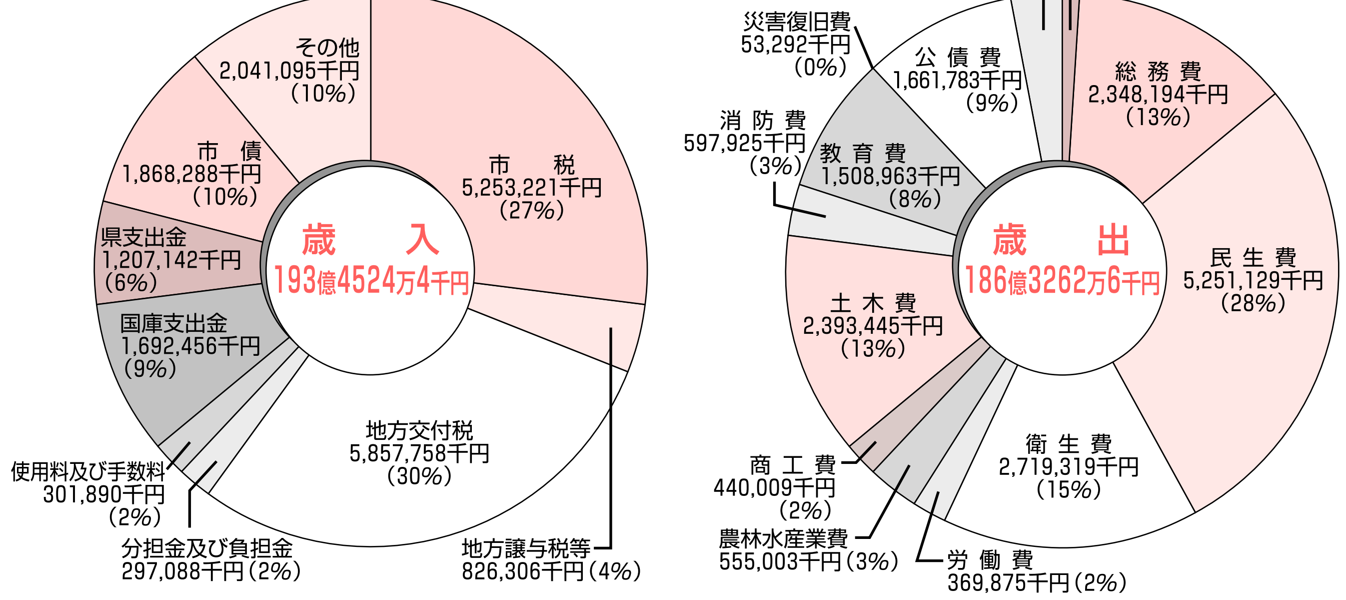
教育費は西脇東中学校屋体改築事業の完了などで1億9972万円減少しました。

また性質別にみると、児童手当、生活保護費、保育所運営費などの扶助費が2億2万3千円増加。

投資的経費では、比延山麓産業誘致地区整備に伴う用地買収や西脇東中学校屋体改築事業などの完了で4億9746万6千円減少。

そのほか、地域福祉基金への積立金や茜が丘宅地供給事業特別会計および後期高齢者医療特別会計への繰出金の増加に伴い、歳出全体としては、9427万円の増加となりました。

【表2】　平成23年度西脇市一般会計決算



特別会計

特別会計では、特定の事業を行うために特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理しています。

決算額は7会計合計で歳入101億5024万2千円、歳出100億6253万5千円となっています。

国民健康保険特別会計は、財政調整交付金が予算を上回り、一方で医療費が予想を下回ったため黒字となりました。

茜が丘宅地供給事業特別会計は、平成16年度から94宅地の販売を開始し8年間で45宅地を分譲しました。

企業会計

企業会計には、市が運営している水道事業、簡易水道事業、下水道事業、病院事業の4つがあります。

水道事業は、老朽管更新事業を実施するとともに中長期的な施策目標を取りまとめた「西脇市水道ビジョン」を策定しました。また、事業の効率化や経費節減に取り組んだ結果、3920万1千円の黒字となり、前年度からの繰越欠損金を解消しました。

簡易水道事業でも1779万4千円の黒字となりました。

下水道事業は、企業債の元利償還金や施設の修繕経費などが増加している状況であり、一般会計からの補てんを行う中で4808万7千円の黒字となりました。

病院事業は、「西脇病院改革プラン」に沿って経営改善に取り組んだ結果、予定より1年早く不良債務を解消しました。しかしながら、収支では1億8133万6千円の赤字となりました。

財政指標など

【表3】をご覧ください。

貯金にあたる基金残高は、前年度と比較して約10億7千万円増加しました。また、借金にあたる地方債残高は前年度と比較して約14億400万円減少しました。

【表4】をご覧ください。

地方公共団体は、健全化判断比率により、「健全段階」「早期健全化段階」「財政再生段階」の3つの段階に区分されます。

西脇市は、いずれの指標も「健全段階」となっています。

決算の財政健全化を表す指標は前年度よりもさらに良化していますが、さらに健全化に向けて諸課題に取り組んでいきます。

【表3】　基金・地方債残高

（単位　千円）

区分	平成23年度（A）	平成22年度（B）	比較（A−B）
基金残高	7,184,403	6,115,781	1,068,622
地方債残高	56,491,255	57,894,861	△1,403,606

【表4】　健全化判断比率

（単位　%）

健全化判断比率	平成23年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率　※1	—	13.11	20.00
連結実質赤字比率　※2	—	18.11	30.00
実質公債費比率　※3	12.1	25.0	35.0
将来負担比率　※4	97.2	350.0	

（黒字の場合は「—」と表示）

※1 一般会計などを対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
※2 全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
※3 元利償還金および準元利償還金の標準財政規模に対する比率
※4 一般会計などが将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

◆問合せ　財政課（市役所内線2-1-4・220）